

(4)調査結果

ア 水域の状況

a 地下水位の状況

現地調査による調査地域の地層及び地下水位の状況は、表 10. 6-3 に示すとおりです。

現地調査を行った 14 箇所の水観測孔のうち 3 箇所 (W6、W10、W12) では水頭が確認されませんでした。

水頭が確認された 11 箇所の水変動状況は、図 10. 6-2 に示すとおりです。

主なトンネル掘削範囲よりも上層にある出店層以浅の地下水位 (W1、W2、W3、W5-H、W7-H) は、平均標高 A. P. 129m～140m の範囲であり、図 10. 6-2(1) のとおり、おおむね年間を通して高い位置で水頭が確認されています。このうち、湿地に近い調査箇所の水頭 (W2 (Ddg1)、W3 (Ddg1)) は、A. P. 135m 前後を推移しており、湿地レベル (約 A. P. 133m) よりも高い標高にあります (図 10. 4-4 (276 ページ) 参照)。

主な掘削範囲もしくは掘削範囲より下層の稲城層の地下水位 (W4-H、W4-L、W5-L、W7-L、W8、W9) については、年間を通して水頭が確認される又は時期によっては水頭が確認されています。このうち図 10. 6-2(2) に示すように、W7-L は年間を通して高い水頭が確認され、W4-H は 8～9 月の降水が多い時期以降に水位の上昇が見られました。また、図 10. 6-2(3) に示す W5-L、W8、W9 については、トンネルの主な掘削範囲よりも低い位置で水頭が確認されています。

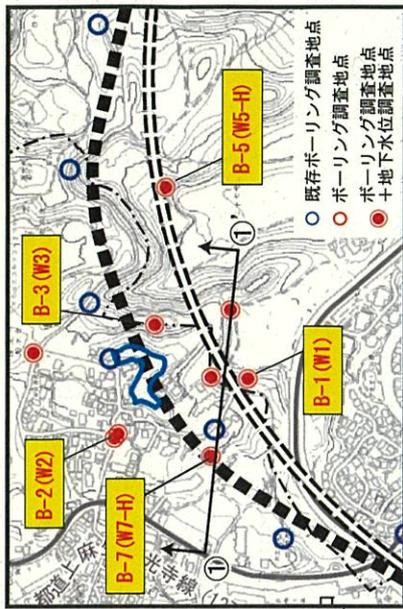
【A案】のルート直下の W7-L (Is2、Is3) において、平均標高 A. P. 121m の高いレベルで地下水位が維持されています。

【B案】のルートのほぼ直下に位置する W9 (Is2、Is3) では、地下水位は平均標高 A. P. 96m 付近であり、トンネル掘削面より低い位置にあります。また、【B案】のルートの南側に位置する W4-L (Is3) では、平成 28 年 10 月までは水位が認められませんでした。平成 28 年 11 月初めに急上昇し、その後変動をしながら緩やかに低下しています。

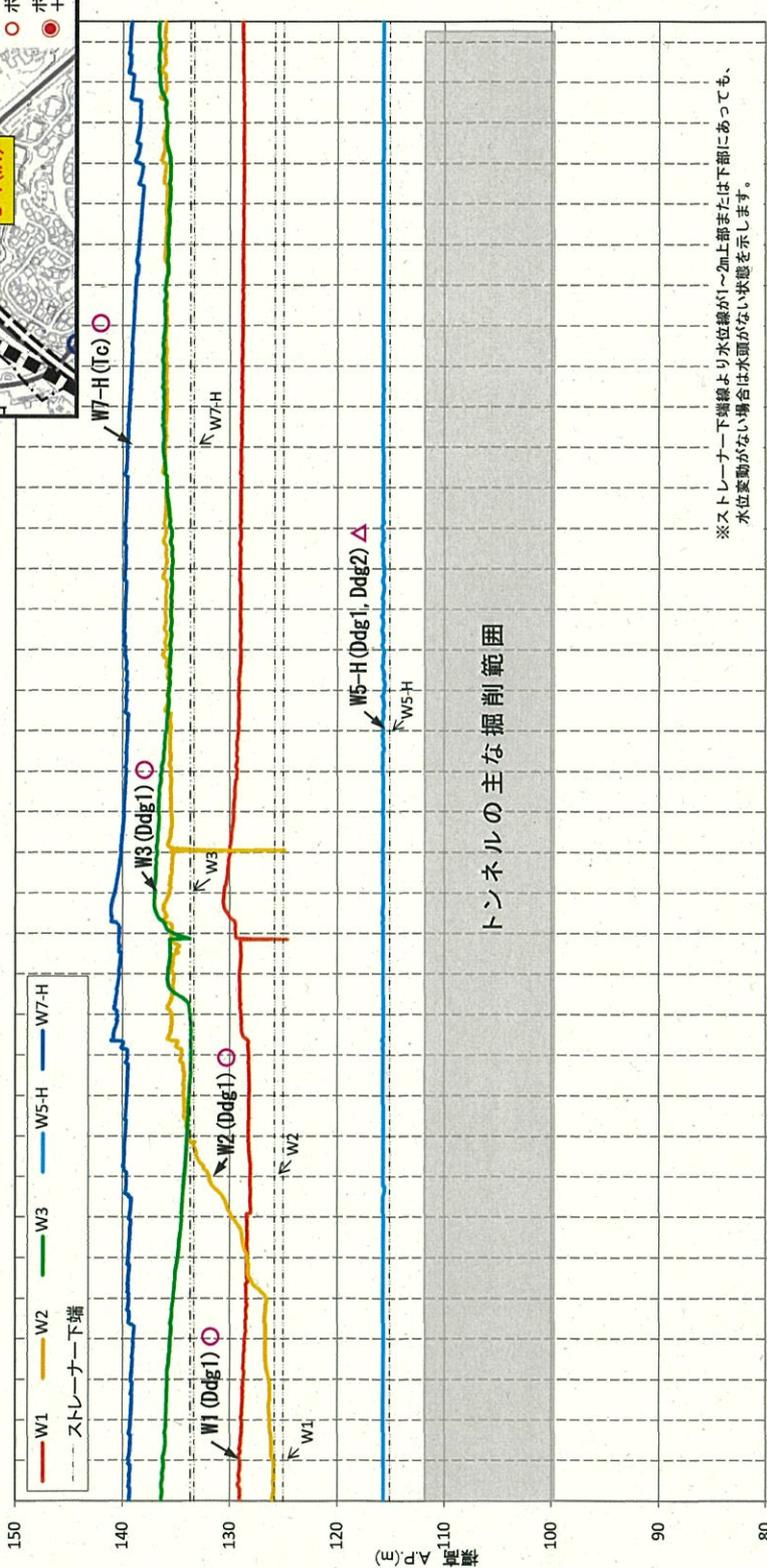
なお、地層ごとの地質の特徴は表 10. 4-3(274 ページ参照)、地質縦断図は図 10. 4-3(275 ページ参照) に示すとおりです。

表 10.6-3 調査地域の地層及び地下水位観測結果

地点 番号	地層名		記号	スレーナ 深度 (m)	掘削 深度 (m)	地表 標高 A. P. (m)	観測結果 (標高 A. P. (m))			水 頭	備 考
							最小	最大	平均		
W1	出店層	第1砂礫層	Ddg1	17.0~ 19.0	50.3	144.0	124.6	130.6	128.9	○	年間通して水頭が 確認される
W2	出店層	第1砂礫層	Ddg1	14.0~ 16.0	50.1	141.8	124.9	136.5	133.9	○	年間通して水頭が 確認される
W3	出店層	第1砂礫層	Ddg1	8.9~ 10.9	54.2	144.6	133.7	137.1	135.7	○	年間通して水頭が 確認される
W4-H	稲城層	第1砂質土層	Is1	26.0~ 28.0	30.0	140.0	—	124.4	—	△	時期によっては水 頭が確認される
W4-L	稲城層	第3砂質土層	Is3	47.0~ 49.0	50.1	139.9	—	117.2	—	△	時期によっては水 頭が確認される
W5-H	出店層	第1砂礫層	Ddg1	9.2~ 11.2	11.2	126.6	—	115.8	—	△	時期によっては水 頭が確認される
		第2砂礫層	Ddg2								
W5-L	稲城層	第2砂質土層	Is2	33.0~ 35.0	35.4	126.3	—	93.7	—	△	時期によっては水 頭が確認される
		第3砂質土層	Is3								
W6	出店層	第2砂礫層	Ddg2	23.0~ 25.0	49.1	136.2	—	—	—	×	水頭が確認されな い
W7-H	古期ローム層		Tc	10.0~ 12.0	12.0	145.4	138.1	141.1	139.5	○	年間通して水頭が 確認される
W7-L	稲城層	第2砂質土層	Is2	47.0~ 49.0	49.4	145.4	111.7	122.7	121.0	○	年間通して水頭が 確認される
		第3砂質土層	Is3								
W8	稲城層	第2砂質土層	Is2	31.0~ 33.0	33.4	122.7	—	94.2	—	△	時期によっては水 頭が確認される
W9	稲城層	第2砂質土層	Is2	47.0~ 55.0	56.0	146.0	96.2	96.4	96.3	○	年間通して水頭が 確認される
		第3砂質土層	Is3								
W10	稲城層	第3砂質土層	Is3	44.0~ 47.0	48.0	141.8	—	—	—	×	水頭が確認されな い
W12	稲城層	第2砂質土層	Is2	27.0~ 30.0	31.3	136.7	—	—	—	×	水頭が確認されな い



○ : 年間通して水頭が確認される地点
 △ : 時期によっては水頭が確認される地点



※ストレーナー下端線より水位線が1~2m上部または下部にあっても、水位変動がない場合は水頭がない状態を示します。

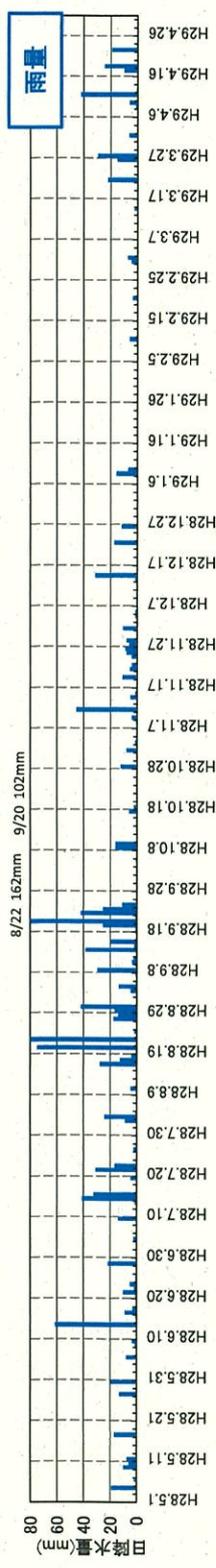


図 10.6-2(1) 地下水位の変動状況 (出店層以浅)

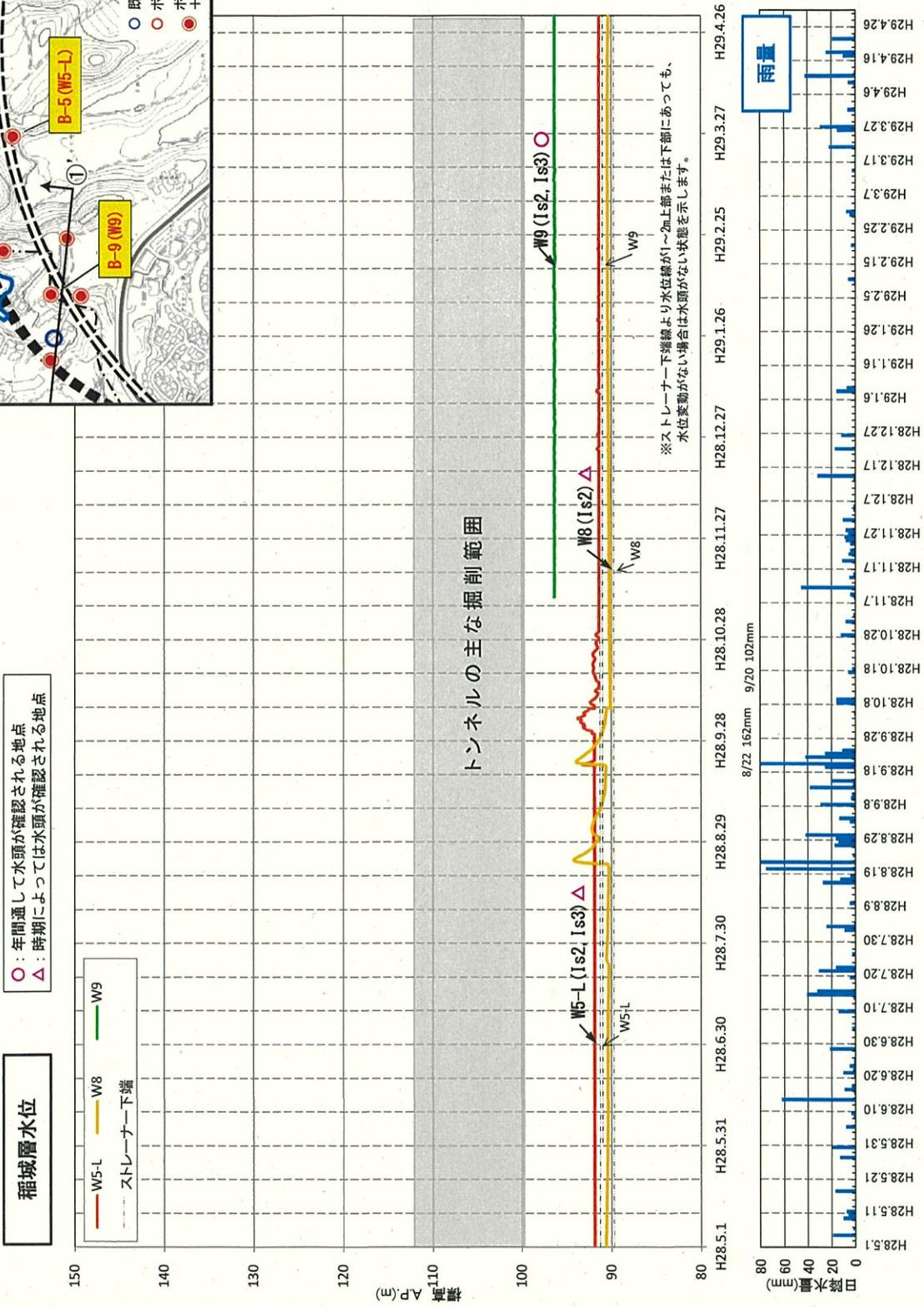
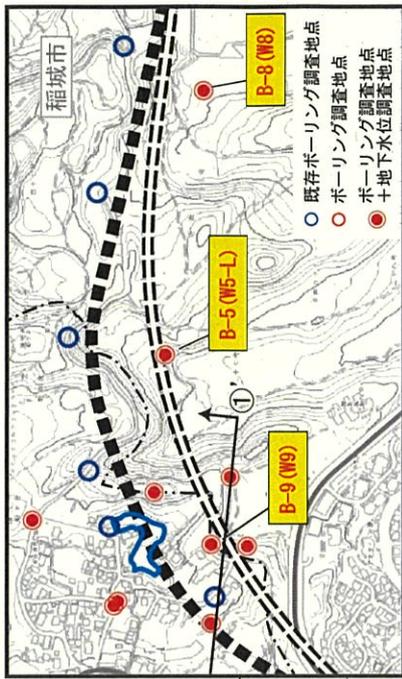


図 10.6-2(3) 地下水位の変動状況 (稲城層②)